

「岩手県ボクシング連盟の取り組み」

岩手県ボクシング連盟は昭和22年に発足し、現在は7つの市町協会で活動しています。

当連盟の主な取り組みを紹介させていただきます。

岩手県ボクシングフェスティバル

成年の「岩手県民体育大会」、少年の「国体選手選考会」、UJ(小中学生)の「岩手県夏季UJ大会」、女子の「元持杯女子大会」を同時開催し、それぞれの種別で協会対抗順位をつけ、さらにはその総合優勝を争う当連盟主管「岩手県ボクシングフェスティバル」は平成26年より毎年開催しています(コロナ禍においても規模を縮小し万全な感染対策の元で実施)。優勝協会には、故元持勝利元会長の冠を取った「元持杯」が授与されます。世代・性別毎の4つのカテゴリーが一堂に会し覇権を争うという、全国初の試みです。第2回大会では計196名の参加を記録するなど、フェスティバルの名に相応しい華やかな大会になっています。なお、「元持杯女子大会」は、国内有数のオープン大会として独自に平成23年から実施しており、これまで県内選手はもちろん、国内トップ選手も数多く参加し、本県だけでなく、日本女子ボクシング界の普及・発展にも大きく寄与しています。



最多優勝を誇る奥州協会(第5回ボクシングフェスティバルより)

連携事業

いわてスーパーキッズ事業には第1回から協力させていただいています。今年度も9回のボクシング体験事業を行いました。事業の際には

県高体連ボクシング専門部の協力のもと高校生選手も数多く補助として参加し、スーパーキッズの皆さんと楽しく練習しています。この事業をきっかけに競技を始める選手も多く、後に全国大会等で活躍する選手もいます。



スーパーキッズ事業には、補助として高校生選手も多数参加

成果と今後の課題

これまで国民体育大会での天皇杯獲得は過去4回、日本を代表する選手も数多く誕生させ、オリンピックは3名、後のプロボクシング世界チャンピオンも2名輩出しています。現在でも、ライトヘビー級日本代表で東京オリンピック候補であった梅村錬選手や、国内唯一の女性国際審判員である中川恵美氏など、選手、役員とも国内外で活躍する人材を生み出しています。

コロナ禍においても、高校総体代替大会を当連盟主催で実施したり、ユーチューブによる大会のライブ配信をいち早く取り入れるなど、さらには少子化に伴い、競技者減少が続いている昨今ですが、このような困難な状況にあっても、関係者一同、関係団体と協力しながら、選手第一で、普及・発展のために知恵を絞って取り組んでいます。



国内有数の女子OP大会・元持杯女子大会(第8回大会より)

岩手県ボクシング連盟HP：<https://iwate.jabf-revival.com>